

第1分科会

コミュニケーション力を育み、心豊かで笑顔いっぱいの子どもをめざして ～さまざまな人とのかかわりを通して～



発表者 和泉 恵美 (東みずほ幼稚園)

指導助言者 幅田 典代

(鳥取県教育委員会西部教育局指導主事)

司会者 近藤 和子 (東みずほ幼稚園)

記録者 牧田 圭子 (東みずほ幼稚園)

清水 菜乃子 (東みずほ幼稚園)

8. 研究討議

(1) 発表に対する質疑応答

Q：記録をとる時などの具体的な視点を教えてください。

A：子どもの姿、援助などを教師がそれぞれ個人記録ノートにとっている。年齢によって、記録のとり方も変わってくるのでそれぞれのやり方している。

Q：H 児のどのような行動から愛情不足であると感じたか。

A：兄弟も多く、母親が仕事を始めたこともあり、我慢をしていた。また、友だちに手が出ることもあり、愛情不足だと捉えた。

Q：H 児に対して特別感があったか。

A：正直な所、H 児には特別感があった。毎日の終礼の時に職員で気になる子どもの意見交換をし、共通理解をするように心がけた。

Q：“子どもの個性が輝く交流のアーチ”の中に、おたのしみ DAY、チャレンジ5とあるが、どういうものなのか教えてください。

A：おたのしみ DAY、もしくはチャレンジ5と称して、毎日帰る前の30分、曜日ごとに内容を決めてあそびに取り組んでいる。たとえば、月曜日は折り紙あそびの日と決めてみんなで折ることを楽しんでいる。

(2) グループ討議

【議題】 コミュニケーション力を高めよう～みんな仲良く、たのしいふれあいあそび～

5つのグループに分かれて、各園の交流でしている触れ合いあそびを紹介し合う。

その後、みんなの前で役に分かれて実践発表をする。

- ・黄グループ ♪「手と手と手と」
- ・赤グループ ♪「青虫の散歩」
- ・青グループ ♪「からすかずのこ」
- ・緑グループ ♪「手おしずもう」
- ・白グループ ♪「お天気ジャンケン」



9. 指導助言

“東みずほ幼稚園の取り組みに学ぶ”

コミュニケーション力を育む大切さをどうやって先生たちは子どもたちに伝えていくのか？

人生の第一歩、一番最初の社会生活のかかわりを先生たちが向き合っている。リレーの第一走者としてこのリレーのバトンをスムーズに次につなげて行ってほしい。鳥取県は夢や希望に向かって学び続けチャレンジする子どもを育てていくことを目標としている。その先には自立して心豊かに未来を想像していく人づくりを目指している。そんな子どもたちを見据えながら私たちは今のかかわりを丁寧に育てていく必要がある。



“東みずほ幼稚園の取り組みに学ぶ”というテーマのもと、3つ大切な視点を挙げられた。

① かかわりの意義を整理した交流の位置づけ

子どもの実態を把握して、どれが大事か必要な活動を吟味することが大切である。

どの幼稚園や保育園でも、5歳児クラスの担任をしている先生は行事などが多く忙しいと言っているのをよく聞く。そんな中で、先生も子どもも行事や交流に追われていないか、行事をこなすことが目的になっていないかと懸念することがある。子どもの実態に合わせて必要な交流を再確認することが必要である。交流で育てたい力や発達に即した必要な経験はどんな経験か保育者が共通理解することで、交流が保育者の創造性・共働性、園の独自性があるものになっていく。

② 記録の工夫

保育者同士の情報共有が大切となる。さらに、情報共有のための機会と方法の充実を強みに記録を取っていくのが良い。

具体的な取り方として、前の担任や保護者とも連携し、子どもの言動の背景を見て具体的根拠を考える。わずかなものでも変容を記録し、さらに周りの子どもたち、クラス、集団の変容も記録していくやり方が良い。

記録はなぜ取るのか？それは、①幼児理解を深める ②幼児理解をもとに次の保育を構想する ③保育者と幼児との関係を省察し、保育者自身の見方を振り返る ためであると考え。記録をすることで背景を探る意識の研鑽となりつぶやきへのアンテナが高くなっていく。必要な形式を自分たちで考察し、子どもの事実から背景を見取り、役立ち感、自己肯定感を育むための必要な支援・環境設定をしていくことが大切である。

③ 一人ひとりによりそうこと

よりそうということはその子の不安感をキャッチすることで、その不安感は見ようとしないと見えないものである。一瞬一瞬が子どもにとって大切である。何に興味を持っているか、何を実現しようとしているのか、友だちとのかかわりはどうかなどという視点で見ると良い。困ったときに困ったと言える子どもを育てていきたい。

気になる子どもの姿は教師のかかわり方の結果なのかもしれない。子どもの姿は保育者の姿勢を映し出したものである。

保育者は一人ひとりによりそううえで

- ◇温かい関係を育てること
- ◇子どもの立場に立つ
- ◇子どもの内面を理解する
- ◇子どもの成長を長い目で見ると
- ◇保育者が共に学び合う

という姿勢を大切にしていき、努めて言動や表情を理解して行ってほしい。

◎まとめ

私たちは何のために勉強したり研究したりするのか？それは、すべては子どもの笑顔のために・・・

☆気づいた事、話したい事を安心して発信できる環境を全職員で作り出す

☆背景を理解しようとする

☆誰かの役に立つ経験は自己肯定感を育む

私たちは鳥取県の保育者である。

遊びきる子どもをめざして、主体的な保育をどんどん積んでいきましょう。